

220829 (一社)世界文化遺産地域連携会議総会議事録

(開会)

事務局(井戸)

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、お集まり下さいまして有難うございます。一般社団法人、世界文化遺産地域連携会議の、事務局をさせていただいております、井戸と申します。それではこれから、リモートという形にはなりますが、会の2022年度 総会を開催させていただきたいと存じます。

まず、本日のご参加者についてです。

本日リモート出席いただいておりますのは市町村数が代理出席含め42。事前に委任状提出いただいておりますのが14で合計が56市町村。

民間メンバーは出席42名に委任状9を加え51。両者の合計が107となりまして、社員総数は136に対し、定款11条の「過半数」と言う基準を満たしております。従いまして、本日の総会は有効に成立いたします。

それでは開会にあたりまして、門川代表理事より一言ご挨拶いただきたいと思います。

(開会挨拶)

門川代表理事(京都市長)

皆さんこんにちは。本日はお集まりいただき、誠に有難うございます。

3年連続でお会いできなくなってしまったのは大変残念ですが、これから世界文化遺産地域連携会議の、2022年度総会を開催させていただきたいと存じます。

この会は、「世界遺産を持つ地域や関係者がそれぞれに活動するだけじゃなくて、連携し、情報を共有するような場を作ろうじゃないか」ということで、昨年、発足から10年を迎えております。

活動には大きな柱が3つあります。

第1に「世界遺産地域間の交流促進」。ノウハウや人材、またうまく行かなかった経験なども含めてできるだけ共有し、さまざまな課題に取り組んで行こうじゃないか、ということです。

第2に「国等への要望提案」。世界遺産は一般的には有名でも、それぞれが抱える厳しい現状に対する、国の理解がまだまだ得られていません。本当にこれで「人類の宝」を半永久的に守って行けるのか？あるいは、世界遺産を活用すれば、日本の観光立国は、もっと実のあるものになるのに、といったことなどを訴えていきたいと思えます。

そして第3は、「さまざまな共同事業の実現」ということになります。すでに東京オリパラを契機に、「世界遺産リレー催事」などがスタートしていますが、全体でやる共同事業以外に、隣接する遺産や、似たテーマを持つ複数遺産で実施する方が成果が上がる事業が色々あるのではないかと考えられます。

さて、時代が大きく変化して行こうとする中、昨年、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録され、各地域が、新たに我々の仲間に加われました。

我が国にとって20番目の世界文化遺産になります。

心から歓迎いたします。

そしてこのことは、日本という国や、会にとってもきわめて大きな意味を持ちます。

その最大のものは、世界文化遺産が、地理的には北海道から沖縄まで、また歴史的には「縄文時代から原爆ドーム・国立西洋美術館の時代まで」をつなぐ存在になった、ということです。

世界文化遺産は、もともと、「インバウンド人気観光地ベスト20」のうちおよそ半数を占める存在であり、「我々は身を引き締めてこれらを百年・二百年先の未来に伝えていかなければならない」。そういったことを毎年この場で申し合わせてきた訳ですが、さらにこれからは「縄文遺産群」の参画により、「世界文化遺産を通し、日本の国土やその文化・歴史を概観できる体制が整った」ということになります。

そういった意味では、この連携により、例えばコロナ収束後のインバウンド再興に向け、大きな可能性が広がってきているのではないかと考えられます。

最後に、本日の進行につき、一言付け加えさせていただきます。

本日前半の部では決算報告や予算審議をおこないますが、これらはできるだけ手短かに済ませたいと思っております。そして後半の部は、できるだけ多くの皆様からご意見や今後の活動に対する、自由なアイデアを出していただく場にしたいと思っております。

リアルな会議ができないのは、返す返すもたいへん残念ではございますが、よろしくご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

門川代表理事(京都市長)

それでは議事を進めたいと思います。
まず事務局より、資料の説明をお願いします。

(新メンバーの紹介)

事務局(井戸)

事前配布させていただいている資料の最初のページ、もしくはパワーポイントの画面をご覧ください。

まず、2021年度に新しく会のメンバーになられた方をご紹介します。

北海道・北東北の縄文遺跡群より、青森県弘前市の櫻田市長さん、七戸町の小又町長さん、岩手県一戸町より小野寺町長さん、秋田県北秋田市の津谷市長さん。

また、民間メンバーとしてラオックス・メディアソリューションズの阿施(あせ)さん、三重県の内海さん、NHKプロモーションの浜野さん、一般社団法人・西芳会の平井さん。

以上8名の方が新しく会のメンバーに加わっておられます。

なお、定款16条により各市町村長さんには理事にご就任いただくこととなりますので、宜しく願い申し上げます。

新しいメンバーのご紹介は以上です。

(新メンバーによる自己紹介)

○弘前市・櫻田市長

○七戸町(青森県)小又町長

○一戸町(岩手県)小野寺町

○北秋田市・津谷市長

○阿施(ラオックス・メディアソリューションズ)

○浜野(NHK プロモーション)

○平井(一般社団法人・西芳会)

門川代表理事(京都市長)

北海道・北東北の縄文遺跡群の皆さん、また民間からは経験豊富な方々、また若い世代がメンバーになって下さり、大変こころ強いですね。宜しく申し上げます。

では、ここからは議事に入ります。事務局より議案1について説明して下さい。

(議案1)

事務局(井戸)

議案1は理事の改選についてです。今年、2022年度が理事の改選期に当たっております。

実はその前に、この間の事務局の不手際につきお詫び申し上げないといけません。定款によりますと理事の改選を2年に一度おこなうこととされておりますが、実は2020年度に持ち回り総会をおこなった際に、事務局の不手際により、この改選手続きを見逃しておりました。昨年の総会後に会長市である京都市さんからその旨指摘され、事態が判明した次第なのですが、事務局の理解が十分でなかったものと猛省しております。大変申し訳ありませんでした。

ご参考までに冊子資料を1枚めくっていただいた所が、現状の組織ということになっております。この現在の体制につき、皆様に2年さかのぼってご承認いただかないことには、本日の会議もこの先に進めないということになってしまいます。ひとえに事務局の不手際でございますので、何とかご理解ご容赦いただけないかと願っております。この点お許し、ご承認いただけませんか？

門川代表理事(京都市長)

代表理事として、門川の方からもお詫び申し上げます。事務局が懸命な努力をしていることもご理解いただいた上で、まずは現在の体制について、2年さかのぼることになります。ご承認いただけますでしょうか？

(異議なし)

門川代表理事(京都市長)

有難うございます。異議なしと認めさせていただきます。じゃ、井戸さん。説明を続けて下さい。

事務局(井戸)

大変ご迷惑をおかけしました。

ではここから今回の改選についてということにつき、ご説明させていただきます。

ご覧いただいているのが現在の体制です。中での変更としては富士山の裾野市が村田新市長さんに代わっておられます。市町村数は62です。

また民間メンバーにつきましては昨年度、発足10周年ということで、当初100名ほどいらっしゃった方々につき継続意思確認をおこないました。10年の間にお亡くなりになった、発足当初からのメンバーが2名、ご連絡を取れなくなっている方が約10名、加えて10名あまりの方が継続を辞退されまして、現在は民間理事7名を合わせて74名です。花岡拓郎理事・毛利和雄理事は今総会をもって退任されます。

以上を合計すると136名という体制になっております。

門川代表理事(京都市長)

改選につき何かご意見ある方、いらっしゃいますか？

.....

ないようでしたら、事務局案はありますか？

事務局(井戸)

事務局としましては、当会議は皆様方のご協力を得て、活動自体は大きな問題なく順調にできているのではないかと考えております。もし皆さま方のご承認が得られるのであれば、引き続き現状のまま次2年間に臨ませていただければと考えております。

門川代表理事(京都市長)

皆様いかがですか？ それでよろしいですか？ 一般社団法人という認可も受けておりますので、きちんとした運営に心がけつつ、一方ではコロナ禍でなかなかリアルな会議が開けて来てない中ですが、もし皆様がよろしければ今の体制であと2年間続けさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか？

(異議なし)

門川代表理事(京都市長)

異議なしと認めさせていただきます。

引き続き理事の皆様にも留任いただくこととなりますので、宜しくお願いいたします。

では続いて議案2・3につき事務局より説明して下さい。

(議案2)

事務局(井戸)

昨年度の会の活動につきご報告させていただきます。

まず活動の1でございます。2021年度は会設立10周年でございます、10周年のあゆみパンフレットの作成、またその告知広告を実施しております。

活動の2でございますが、会の活動内容の第一に、メンバーや地域間の意見・情報・ノウハウ交流を活性化させて行く、ということがございました。残念ながらコロナの影響によりまして、総会は今回同様リモート、交流会等も開催できませんでしたが、メンバーリストを通し日常的に意見・情報交換をおこなってきました。

また、富士宮市で開催準備をして頂いていた、第8回目の世界遺産サミットも、残念ながら本会議自体は、コロナにより中止となりました。が、これについては分科会をリモートで開催し、内容をYOUTUBEで一般公開するという形を取らせていただきました。

第1分科会では「世界遺産地域における都市計画と景観形成」をテーマに日光、富士宮、萩、平戸に加え宇治・姫路など近畿の事例紹介をおこなっております。

また、第2分科会はオール女性メンバーにより「世界遺産を守り活かすソフト事業」につき議論をおこないました。北海道・北東北の縄文遺跡群、富士山、紀伊山地、百

舌鳥・古市古墳群の塚、巖島神社をお持ちの廿日市からご発表をいただいております。ぜひお時間ある時に、YOUTUBEのほう、ご覧いただければと思っております。

活動の3は要望活動です。

昨年度も残念ながらコロナのため、リアルな要望活動ができませんでしたが、世界遺産議連、世界遺産サミット議連、また各省庁の関連部署、合計すると約150箇所にも要望書を送付させていただいております。

要望内容はここに記させていただいたような項目です。

活動の4。「各遺産毎の課題解決に資する会でありたい」ということで、各遺産をできれば年間1回ずつは訪問させていただき、勉強させていただいたり、提案させていただいたりということをやっております。市町村全部と言うのはちょっと無理なんですけれど、昨年度はいちおう20遺産全て個別に何らかの意見交換をさせて頂くことができました。

また、文化庁の「文化財総合活用予算」を得まして、各地元とともに、紀伊山地・斑鳩・石見銀山という3つのプロジェクトチームを運営しました。これらについては各遺産ごとの課題解決ということだけではなく、プロジェクトチームで得られた事業ノウハウを全体としても共有化して行くことを目指しております。

活動の5は共同事業の推進です。

(1)。2019年の秋から、東京オリ・パラを目指し準備してきた「世界遺産リレー催事」が、1年遅れの本番の年を迎えました。残念ながらオリ・パラそのものが不完全燃焼だったり、またコロナで中止・延期・縮小など余儀なくされた催事もございましたが、皆様のご協力のお陰で、こうしたチャンスがなければなかなか実現できない1つのパターンが確立できたのかなと感じております。

写真は春から年末まで法隆寺中心に実施された「聖徳太子没後1400年」事業、オリンピックに合わせ夏に特別実施いただいた五箇山の一斉放水、秋から冬にかけて実施された姫路城のイルミネーション、そして百舌鳥古墳群での世界遺産劇場です。

共同事業(2)の情報発信ですが、「世界遺産リレー催事」関係の調整と情報発信を、国の「日本博」の支援を得て実施しております。

①。会のHPを引き続き11言語で継続しています。

11種類のHPを同時に作っており、いっぽうではイベントにはいろんな変更がつきものですので、実はみかけ以上に手間がかかっております。

②の映像につきましては「石見銀山と温泉津の夜神楽」、長崎と天草地方の潜伏キリシタンの「サイレント・クリスマス」の2本が昨年度の制作です。また、一昨年までに

制作した富士山、白川郷・五箇山、二条城アートアクアリウム、そして姫路城のイルミネーションにつきましても昨年度、11言語のテロップをつける作業をしております。

③の YOUTUBE 広告ですが、2019年にロンドン・パリ・マドリッド、20年の NY・ロサンゼルス・東京に引き続き、昨年度はドイツ、イタリア、ブラジル、ロシアのそれぞれ日本への航空路線を持つ都市と、日本にいらっしゃる外国人対象にやってみました。

昨年度の結果を簡単にご紹介しますと、約300万円のコストで画面に触れた方が253万人、30秒以上映像を見た方が42万2千人という数字でした。距離や飛行機の便数、経済状態に違いがありますので、もっとなじみのある国と較べてどちらがインバウンドにつながりやすいかについては何とも言えない部分がある訳ですが、一昨年の NY・ロス・東京が119万人と18万4千人ですから、「くいつき」としては、あまり日本の情報がない国の方が倍以上よかった、という結果が出ております。

次に(3)ですが、昨年度末に各地のご参加ご協力を得て、世界文化遺産スタンプラリーをスタートさせることができました。スタンプならびにパンフレットは遺産毎に19種類、スタンプ設置箇所は54で、昨年度の一つの成果としては、ともあれ各地のご協力で非常にいいスペースのネットワーク、またそこで働いている方々との繋がりが作れた点だと思います。

写真は日光、浅草・雷門の前にある「浅草文化センター」、広島市の平和記念公園レストハウス、長崎のグラバー園です。リーフレットの初回印刷は16万部ということで、現時点ではそれぞれの押印箇所に行った方に記念にさせていただくとともに、そこ以外の世界遺産にも興味を持って下さったらいいなという方法をとっております。

(議案3)

事務局(井戸)

ではここからは(議案3)2021年度の決算につきご説明させていただきます。

表の左から2つ目の欄が2021年度決算の収入の部でございます、①の市町村会費収入は128万円。20年より少ない理由は「19年度に振り込みを忘れられ、20年にそれを振り込まれた自治体が複数あったこと」と「20年分を年内度に手続きできなかった自治体があった」ことによるものです。

②の事業収入は括弧1番上、「日本博」関係のものが合計で4546万8千円、ただ

し右側に書いておりますように、国からの支援は2846万8千円、3分の1の裏打ち分には事業実施費相当として1700万円をかたちここに含ませていただいた数字です。従いまして会の実力はこの決算額から、各地での事業実施費相当額の1700万円を差し引いた額というのが現状でございます。

②の続く3項目は文化庁からの「文化財総合活用予算」です。

括弧一番上、紀伊山地PTに2292万8260円、続いて斑鳩PTに346万4044円、そして石見銀山PTに249万7千円の予算がついております。このPT予算は支出の部では差し引きゼロでそのまま同額が事業支出となります。また、富士宮市でのサミット中止を受けて、独自事業としてリモート分科会をおこないましたので、昨年度、サミット用に日本観光振興協会で計上頂いていた協力金30万円を、会に入れて頂く形になっております。

以上4事業と日本観光振興会分30万円の合計が7465万7304円です。

③の交流会費ですが、これは従来、総会・交流会をやっていた霞山会館で「パーティセット」という形で総会会場を借りておりました関係で、交流会参加費を計上し、支出はそれを含めた総会費として処理してきた経過があります。しかしながら、昨年度は交流会を実施してませんので、ここはゼロとなっております。

④の寄付金ですが、一昨年は二条城で「アートアクアリウム」が開催され、入場料収入の1%を会にご寄付いただいたのですが、昨年度はここもゼロとなっております。

ということで、以上に、利息と前年度繰越金を合わせまして8000万1436円というのが昨年度の収入合計です。収入が予算を855万円ほど下回っておりますのは、主にはPTの関係です。コロナにより海外関係の事業が実施できなくなりました。例えば、紀伊山地PTの熊野古道とスペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラの交流事業などです。で、その部分が交付辞退案件とならざるを得なかったということでございます。

続いて支出の部です。

右側の備考欄に①②とかと書いてありますが、これは収入の部の収入項目に対応しております。基本的な考え方としては、会にとって最も基礎的な部分は収入の部①の会費、あと足りない分は⑥の繰越金などから拠出させていただく形になっております。

支出の部1の要望活動費は11万2142円。いわゆる要望活動自体ができませんでしたので、内訳は要望書の印刷・筆耕・郵送にかかった費用です。

2の会議費が21万1442円はリモート総会の開催費、また資料の印刷費と郵送料です。加えて、事務局関係者によるブレスト合宿を兼ねた、北東北の縄文遺産群視察をおこなっております。

3のイベント費用はサミット関係です。38万6160円。具体的には日本観光振興協会からの30万円を活用した一般向けの広報、以外は出演者謝金や内容調整に要した交通費です。

4の広報費、括弧1番上の4554万5847円は「世界遺産リレー催事」の関係で、収入の部で言うと②の第1項目 見合いです。いわゆる情報発信系、地域事業の実施費以外に、実行委員会関係4名の人件費、交通費がここに含まれています。あとは収入の部との差額7万7847円が「世界遺産リレー催事」実施にあたって会の自己負担分という形になります。

括弧2つめの2万5679円はインターネットのプロバイダ料で、収入の部①からです。3つめの46万1300円は10周年記念パンフレットの作成費と各方面への郵送料、加えて10周年の広告料と「世界遺産写真展」での会の展示関係費用です。以上の合計が4603万2826円です。

5の事業推進費2894万2084円のうちカッコの上3つは各プロジェクトチームに関するもので、収入の部②の「文化財総合活用事業」関係の収入との見合いです。その他で5万2780円とあるのは、プロジェクトチーム運営にあたって国の費用で賄えなかったもの、例えば実行委員会開催時の会場関係や、委員の旅費交通費などと、あとは事業関係の振込手数料の合計額です。

保守的経費としては6の調査研究費5万982円、入場料・書籍購入・会合参加などの費用です。

7の旅費交通費38万9806円は「世界遺産リレー催事」に関係しないもの、加えてレンタカー・タクシー・高速代・ガソリン代等、国費用に計上できなかったものの合計額となっています。

以下、8通信費4万893円。9消耗品費13万1590円は、主に文具やコピー、封筒・名刺の印刷費です。10のその他は昨年度より税理士に会計を見てもらっておりますのでその費用と税金、また副会長でいらっしゃった日光の大嶋前市長さんのご葬儀の際のお花代 等の合計額となっております。

以上の支出合計は7639万6575円となり、360万4861円を本年度に繰り越すという形になっております。議案2・3、昨年度事業と決算のご説明は以上です。

門川代表理事(京都市長)

井戸さん、ありがとうございました。

厳しいコロナ禍のもと、非常に効率的で、世界にもつながる活動に改めて敬意を表したいと思います。

これらの決算内容については寺田さんに監査をお願いしております。

では、寺田さん、監査報告を願います。

寺田監事

寺田でございます。こんにちは。2021年度の決算および領収書類監査させていただきまして適正に処理されておりましたのでここにご報告致します。どうもありがとうございました。

門川代表理事(京都市長)

寺田さん、有難うございます。それでは、ここまでの説明や決算内容についてご質問やご意見等ある方おられますか？

.....

ないようでしたら、(議案2・3)に関してはこれでよろしいでしょうか？

(承認)

では引き続き(議案4・5・6)について事務局より説明して下さい

(議案4)

事務局(井戸)

本年度の事業計画案につきご説明させていただきます。

1番目の「連携・交流」につきましては、サミット・総会・交流会やMLなどを通し、会の運営や人的交流はもちろん、各地の進んだノウハウの共有に努めていきたいと思っております。継続事業に加え、今年は第9回目となるサミットが富岡市で開催されます。冊子資料(1)の所で第8回となっておりますが「9回」の間違いです。もう事務局がどんくさいもので申し訳ありません。

概要については資料と画面にあるようなことなのですが、後ほど富岡市の榎本市長さんのほうからの補足をいただければと思います。

また、2023年度の開催地は法隆寺のある、奈良県斑鳩町となっております。

サミットはそこで10回目となりますので、それで20遺産を「半巡」するという形になります。10年かけてなかなかいい形になって来ているのではないかというお話の一方で、ここからはそう簡単に立候補地が出て来ない可能性もありまして、そろそろ一つの転機を迎えつつあるのかなという感じもして来ています。とは言え、無理することなく続けて行けるに越したことはありませんので、新しい遺産の皆さんもどうぞ遠慮なさらずに開催検討いただければと思います。

2番目は要望活動。画面の写真はちょっと懐かしい3年前までのものです。

コロナがぶり返したり、なかなか終息に向かわない状況ですので、現時点では東京に皆で集まってやるというのはちょっと難しいんじゃないかな、という感じがしてきております。その場合は昨年同様、各所に要望書をお送りする以外の選択肢はなくなる、という感じにならざるを得なくなります。

3の「遺産ごとの支援や地域別課題の解消」に向け、今年もプロジェクトチーム活動を進めてまいります。写真は大田市に取りまとめをやっていただいて5年目に入る西日本世界遺産の共同PRです。今年は集大成として、全国縦断で仙台から鹿児島までの新幹線主要駅での実施を考えております。写真は18年の大阪駅、19年の名古

屋・広島・博多駅、また2020・21年はオリンピックに合わせ首都圏の主な20ほどの駅で実施して来ました。写真は品川駅と地下鉄有楽町駅です。

4年間やって見て1つ言えることとしては、こうした共同PRは特に広域遺産やシリアルノミネーションの遺産ではそれなりにコストベネフィットがあると思いますので、例えば西日本だけでなく「九州」とか「潜伏キリシタン」とか「JR東日本沿線の世界遺産」といった括りでも、これ以外にも色々なことが考えられようかと思えます。

それからもう1つのお話は、この「文化財総合活用事業」そのものに関してです。

最長5年ということで、実は紀伊山地は昨年度まででいったん終了、斑鳩・石見銀山も本年度終了予定となっています。

この予算は「100%補助」「主体となるのは実行委員会など非行政組織」、ただし「新規案件については情報発信以外のことをしてください」というものです。それぞれの遺産で、PTという形ではなくすでに実施されている所も多数ありますが、もし地元だけではなく、会のPTとしてトライして見ることにご関心ある地域・遺産ありましたら、できるだけ早めに事務局までご相談願いたいと思います。例年の申請は年末年始ですが、やるならば秋には動き始める方がいいと思っております。

4番目は共同事業の推進。まず(1)は世界遺産リレー催事です。無理しない範囲で継続して行きたいと考えておまして、今年のラインアップはこのような形になっております。これらのうち①の「世界遺産劇場IN百舌鳥古墳群」が冊子資料では2月か3月に開催するとなっているのですが、まだ日程等確定してないようですので、これについては資料のカッコ内を「未定」とご修正いただければと存じます。

写真は上から、春の世界遺産桜リレー、7月には富士フィルムさんとのコラボで、昨年の東京に引き続き大阪にて「世界遺産写真展」がすでに開かれております。秋に開催予定の白川郷一斉放水。今回からは「特別に夏に」という訳にも行きませんが、実施時期は通常どうりの秋に戻ります。最後は秋から冬にかけ、京都で新たに計画されている広域イベント「ONE KYOTO」です。

(2)は情報発信です。門川代表理事の冒頭ご挨拶にもありましたが、北海道・北東北の縄文遺跡群が新規登録されたことによりまして、世界文化遺産で日本史の各時代、また国土全域を説明できるようになりました。これは大変、大きなことだと感じております。

まず、①のHPにつきましては、オリパラも終了いたしましたことですし、少しずつそういう部分を表現できるものに改訂して行きたいと考えております。まずは「世界遺産でたどる日本史」のコーナーを高崎商科大学の熊倉さんをお願いし、改めて書き下ろしていただいております。

②の映像につきましては、今年度は「平泉の藤原まつり」と「奈良の燈花会等」の撮影がすでに終了しております。以降、9月前半には北海道・北東北の縄文遺跡群の「縄文まつり2022」、10月末には沖縄を「首里城復興祭」中心に撮影する予定です。で、そこまで行きますと20遺産に対し、10催事分が出そろおうという形になります。北海道から沖縄まで、また年間とおしだいぶラインアップ感じが出て来たり、日本の魅力を四季に渡って紹介できる感じになって参ります。

本年度からはそうした整いつつある素材を十分に活かし、③のSNS広告や④JNTOとの連携を通じた情報発信に取り組んで行きたいと考えております。

ただし、SNS広告については今年は基本的には東アジアを念頭に置いているのですが、特に中国など今はなかなか入国もままならない所がありますので、一部を東アジア以外で実施することも含め、様子を見ながら対象地選びをするという形にならざるを得ないと思っています。

一方では、各遺産と海外のマッチングのようなことも始めたいと考えています。例えば映像のうち、潜伏キリシタン・エリアの「サイレント・クリスマス」については、韓国でのSNS広告をやってみたいと思っています。申し上げるまでもなく、東アジアで最もキリスト教関係者が多いからですが、世界中を見渡すとキリスト教関係者自体は23億人いらっしゃると言われておりますので、そういった「ひょつたしたら化けるかも知れない部分」については着実に布石を打って行きたいと考えています。

つけ付け加えますと、こうしたSNS広告による情報発信、この会だけでできる規模はたかだか知れています。が、いずれにしても、外国人観光客に人気の観光地ベスト20のうち半数は世界文化遺産ですし、また発信していく材料自体はこうして整ってきてますので、国にこうした発信にそれなりの予算をつけて下さいという提案もしていくべきでしょうし、あるいは県なり市なりが、大なり小なりの予算をつけて下さりさえすれば、狙った国にそれなりの発信ができるようになって来ているということです。

スタンプラリーについてはスタートが昨年度末でございましたので、実質的には本年度からの事業です。現時点ではリーフレット等を四半期に一度のペースで補充しておりまして、将来的には交通機関との連携などもやって見たいのですが、正直この間のコロナで、現状はどの交通機関も財政的に厳しく、またこちら側としても全国の駅で配るので「パンフレット1000万部」と言われても、それに対応できる資金もマンパワーもないものですから、そうした体制にはちょっと時間をかけないというのがないのかなあという感じもしています。

また、今年の夏休みからは、北海道・北東北の縄文遺跡群に加わっていただきました。新しいスタンプ設置箇所は弘前は裾野地区体育文化交流センター、それと七戸町の二ツ森貝塚館、一戸町の御所野縄文博物館、北秋田市の伊勢堂岱縄文館。こ

れらが新しいスタンプ設置箇所です。デザイン関係や20遺産入りリーフレットの改訂も何とか夏休みに間に合わせました。

あと全体マークの方も、よく見ていただくとお分かりいただけるかも知れませんが、縄文遺跡群入りのものに変更させていただいております。

(議案5)

事務局(井戸)

(議案5)には中期的課題についてまとめております。(1)。組織としての大きな課題には「財政基盤の充実」「議連含めたロビイング力の確保」「メンバーの増強」といった課題が挙げられます。特に民間メンバーについては若い力にもっと加わってもらいたいと思っていますので、各地域やメンバーの皆さん、いい方おられたらぜひご推薦いただければと思っています。

(2)。共同事業分野の充実については「市民による世界遺産清掃」に力を入れておられる宗像市さんから、そうしたことに一緒に取り組みませんかというご提案があります。写真は宗像市から船で渡った大島での「清掃ツアー」の様子です。

また、共同事業については、門川代表理事のご挨拶にもありましたように、「リレー催事」や「スタンプラリー」のような全体でやるものだけでなく、隣接した複数遺産や似たテーマを持つ世界遺産間で取り組めるような内容についても色んな可能性があるように思っております。

いいアイデアがありましたら積極的に調整させていただきますので、是非何なりとご相談下さい。

付け加えますと、11年前の会の発足時に「すぐにできないことも含め、とりあえずアイデア倉庫を一杯にしておきましょう」ということを呼び掛けさせていただきました。が、11年たってチェックしてみると「やってみただけどうまく行かなかった」ことも含め、ほぼ全てのアイデアに何らかの形でトライすることができております。

世界遺産リレー催事も、そもそもは姫路市さんから「オリパラに向け、姫路城でイベントをやりたいので、何か所かで一緒にやりませんか？」という提案があったのが発端です。そういったある意味気軽に考えたアイデアが、全体のプラスになっていくということが大いにありえますので、ご協力よろしく願いいたします。

最後にもう一点、(3)です。

定款を見直す方がいいのではという部分がぽつぽつ指摘されるに至っております。

例えば現状の12条では「各社員は各1個の議決権を有する」となっているのですが、これは一個人も自治体も、また自治体間では規模や構成資産の数なども関係なくすべて同じ一票ということであり、しかも数としては民間メンバーの方が多いいいことですので、果たしてこのバランスでいいのかどうかにつき、ご指摘があります。

今日この場でということではないのですが、来年にかけこうした部分をどうするか。例えば「理事は2個の議決権」にするとか「市町村会費一口につき議決権1」とするとか、まあ当面、大きく意見が割れる問題はそう生じないかも知れませんが、例えば一昨年のような書面表決せざるを得ない場合も実際出てきておりますから、そうした全体のルールに関する議論も始めて行く方がいいと考えております。

(議案6)

事務局(井戸)

最後に、(議案6)本年度の予算につきご説明させていただきます。

議案6の1、収入の部としては左から2つめの枠が2022年度予算額です。

①の市町村会費が昨年予算同額の137万円。②の事業収入としては現時点で「リレー催事」と2つのプロジェクトチームの予算が確定しておりまして、その合計が5010万6千円。

昨年からの繰越金をこれに合わせまして、5508万861円となります。

昨年度から大きく額が減っている最大の理由は、紀伊山地PTが昨年度で終了したためです。

次に支出の部ですが、同じく左から2枠目が2022年度予算でありまして、1の要望活動に12万円、2の会議費は25万。3のイベント費はサミット関係などに20万円。

4の広報費としては括弧1番上、「催事リレー」は収入見合いで4293万7968円。収入との差額27万5968円は自己負担金となりますが、ここは最終的には交通費等できるだけ圧縮し、支出の方を収入予算に合わせたいと思っております。

以下、HPプロバイダーに3万、以外の広報費として20万円で、広報費の合計は4316万7968円です。

5の事業推進費は収入の部②の文化財総合活用事業に対応するプロジェクトチー

ム予算です。国対応不能分の予算を3万円として、以上の合計が747万4千円。

保守的経費としては調査研究費5万円、旅費交通費に25万円、ただし交通費については備考欄にありますように、催事リレー関係で別途119万円ほどの予算を組んでおります。以外に通信費5万円、消耗品費に10万円、また本年度より新たにスタンプラリー関係の保管に月2万円、年間24万円に貸金庫合わせて地代家賃として26万円を確保させていただいております。

また、事務雑費として税・税理士・登記関係などで10万円を計上させていただきまして、支出予算の合計は5202万1968円。来年度への繰越金305万8893円含め5508万861円というのが支出予算となります。ご説明のほうは以上です。

門川代表理事(京都市長)

ありがとうございました。それでは、ここまでの説明や予算内容についてご質問やご意見等ある方おられますか？

.....

ないようでしたら、(議案4—6)の本年度予算についてはこれでよろしいでしょうか？

(異議なし)

(自由討論)

門川代表理事(京都市長)

それでは、後半の部では皆様のご意見やアイデアを伺っていきたく存じます。

11年間に組織や活動が大きくなってきましたが、その割には会費や事務局体制が井戸さんの熱意と知見におんぶにだっこという形になっていますので、そのあたりをどうしていくかについても考えないといけません。また会としての意思決定のあり方。メンバーを増やしていきたいという一方で、個人と自治体が同じ一票ということについて不安だという意見もあります。そのあたりについても案をまとめたいと思います。

それでは意見交換に入って行きたいと思います。

まず「サミット」について、本年度実施の富岡市・榎本市長さん、来年度開催予定の斑鳩町・中西町長さん。そのこと以外のことで結構ですから口火を切っていただけませんか？

富岡市・榎本市長

みなさんこんにちは。富岡市長の榎本でございます。日頃より世界遺産富岡製糸場の保存活用にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。富岡製糸場は今年の10月4日で開業150年を迎えます。この節目の年を記念した様々なイベントを予定しておりますが、その目玉の一つが富岡製糸場を会場として行う今回の「世界遺産サミット」であります。開催にあたりまして、皆様方には大変お世話になりますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

今回の世界遺産サミットでございますが10月の29日と30日の二日間を開催期間とし、基調講演にはその分野の専門家であります北海道大学大学院教授西山典明先生に「文化遺産の持続可能なマネジメント」をテーマとしてご講演頂きます。

分科会におきましては「文化遺産の地震対策」と「文化遺産への地域コミュニティの参画」という二つのテーマをご討論いただく予定です。

最終日にはこの結果を踏まえた意見交換を行いまして今回のサミットの成果として取りまとめたいと考えております。

コロナ禍による様々な場面での行動制限も踏まえ基調講演会や文化会はライブ配信も検討をしております。その他富岡製糸場絹業遺産群の構成資産であります下仁田町の荒船風穴、藤岡市の高山社跡、伊勢崎市の田島弥平旧宅の見学会も実施する予定となっております。

最後になりますが今回の更なる発展と皆様方のご健勝記念を申し上げますとともに、富岡製糸場で開催を予定しております世界遺産サミットを通じて皆様との交流、連携を深め貴重な文化遺産を維持、検証していく為の課題や情報共有をかかりたい

と存じますので、多くの方々のご参加を心よりお待ち申し上げご挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。

斑鳩町・中西町長

皆さんこんにちは。斑鳩町長の中西でございます。いつもお世話になっております。世界文化遺産地域連携会議にご参加の皆様におかれましては、様々な分野で協力頂いておりますことに感謝申し上げます。11月29日、30日には富岡市様において開催される第9回世界遺産サミットに出席させていただき、皆様とお会いできることを楽しみにしております。

さて、法隆寺が平成五年に世界文化遺産の登録を受けてから来年で30年を迎えます。貴重な文化遺産を後世に引き継ぐため、安心安全なまちづくり、文化財の保存活用を進めて参ります。

斑鳩町では令和三年の聖徳太子1400年御遠忌に向け様々な事業を検討しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止や延期を余儀なくされた事業もありました。しかし、聖徳太子の和の心を広めたいという強い思いから昨年9月には法隆寺境内における能楽公演、11月には奈良県と連携して法隆寺境内と門前で木製灯籠等を並べる「和のあかり」事業を感染対策を講じて実現いたしました。「和のあかり」については大変好評でしたので、来年の世界文化遺産登録30周年に向けて機運を高めるため法隆寺や住民団体と力を合わせて、今年11月にも法隆寺門前で実施することとしております。

コロナ禍であってもできることをこうして実現していき、地域の活性化を進めていきたいと考えています。これからも世界文化遺産地域連携会議の皆様と力を合わせて、国に対して世界文化遺産への支援を求めていくなど更に連携を深めていきたいと考えております。また、今年十月には富岡製糸場から世界文化遺産サミット開催のバトンを引き継ぐ予定でございます。令和五年度には斑鳩町で皆様をお迎えできるよう準備を進めておりますので宜しくお願い致します。

門川代表理事(京都市長)

有難うございます。

サミットについては富岡市、斑鳩町の次、11回目以降がまだ決まっていないということですので、ぜひ各地域ともにご検討願えればと思います。

それでは続いて、大きな所から議論して行きたいと思います。

先ほど、会の運営や中期的課題について説明や問題提起がありました。そうした点につき何かご意見がありましたら、どなたからでも結構ですのでご発言いただければと思います。

いらっしゃらないようでしたら進行上、私からご指名させていただきます。

平泉の青木町長いらっしゃいますか？

平泉町

平泉町です。すみません、青木町長ですが今、急用で席を外してしまいました。

門川代表理事(京都市長)

富士宮市の須藤市長いかがですか？

富士宮市・須藤市長

富士宮市は前回サミット開催地に指定されたわけでございますけれども、コロナが蔓延したことにより実現できず、誠に残念でした。

富士山は、信仰の対象と芸術の源泉ということで世界文化遺産への登録に至ったわけでございますけれども、そうした素晴らしい富士山を全国の方々に是非来ていた

だき、見ていただいて、そしてまたできれば期間をおいて富士宮市で世界遺産サミットをやっていただければありがたいと思っております。

会の運営につきましては門川代表理事のリーダーシップで、精力的によい活動をやっていると思っております。今後とも門川さんのもとで、しっかりと力を合わせてやっていきたいと思っております。以上であります。

門川代表理事(京都市長)

では、民間理事の皆さん、何かご意見ご提案はありませんか？

全国街道交流会議の藤本さん、いらっしゃいますか？

藤本理事(全国街道交流会議代表理事)

藤本です。門川さんのリーダーシップと井戸さんの頑張り、また全員の協力でよくここまで来たと思います。

インバウンドに関してですが、世界遺産の資質の中味とポスト・コロナということを考えて、これからは東アジアだけではなく、欧米諸国からいかに来てもらうかということが大事だと思います。オーバーツーリズム含め、地域ごとにいろんな思いはあるとは思いますが、全体としてはやはり欧米諸国への情報発信ということが重要だと思います。

門川代表理事(京都市長)

有難うございます。理事の後藤さん、いかがでしょう？

後藤理事(工学院大学理事長)

はい。特設会の運営についてはありませんけれども、会で要望すべき事項としてですね・・・「歴史まちづくり法」というのがあって、そこで整備するお金で交付金が出てくるんですけども、世界遺産でいうと世界遺産になっているものの周辺環境を整えていくことの交付金が「歴まち法」で出るわけですけども、その交付率を世界遺産がある地域に関しては少しあげていくような要望を国にまとめて出していくと非常に有効じゃないかなという風に思っています。是非ご検討されてはいかがでしょう。世界遺産のある市町村はですねこの「歴まち法」に是非取り組んでいただくと周辺環境整備に有効ですのでその辺も認識いただければという風に思います。以上です。

門川代表理事(京都市長)

有難うございます。ぜひ検討させていただきたいと思えます。

次に、個別のお話では、文化財総合活用事業を活用して「プロジェクトチーム」を立ち上げてきた訳ですが、現状のものは今期まで、という説明がありました。まず、この件でご尽力いただいた田辺市熊野ツーリズムビューローの多田稔子会長。5年間、会のプロジェクトチームとしてやってみて、いかがだったでしょう？

多田稔子(田辺市熊野ツーリズムビューロー)

紀伊山地の霊場と参詣道より、田辺市熊野ツーリズムビューローの多田でございます。五年間。文化庁からの補助金をいただきまして、とっても濃い取り組みができました。昨年度は四年間総括したような一冊のオフィシャルガイドブックができました。ガイドブックというよりは本当に非常に文化度の高いバイブルのようなものが出来上がったと思っています。田辺や熊野古道エリアだけでなく、紀伊山地の全エリアをカバーする一冊ができました。ありがとうございました。

もう一つ最近思うことですが、縄文遺跡群が登録されたことによって世界文化遺産が日本の歴史というんですかね、有史以前までさかのぼれるというのは、日本にとって凄い財産だと思うんですね。世界遺産たくさんある中で、これほど古いものというのは数えるほどだと思います。その辺をもう少し強調しながら、日本の世界文化遺産情報を取りまとめ、保全・活用に加えて世界に向け発信できればいいのではないかなと考えています。以上でございます。

門川代表理事(京都市長)

私も冒頭に発言しましたが、1万5千年前からというのは本当に素晴らしいことだと思います。それぞれに情報発信するとともに、全体としてはこの会でもそれらをまとめて行くことが大事だと思います。

同じ紀伊山地から吉野の中井町長、広域遺産ゆえの難しさ、またコロナの影響はじめ日頃のお悩みなども含め、何かコメントいただけましたら。

吉野町・中井町長

吉野町の中井でございます。実はわたくし自身はコロナが始まった令和二年の二月に町長になったんですが、それ以降、世界遺産や桜を中心とした観光面が非常に厳しい状況になっています。先ほどですね、世界遺産をどうやって発信するかというときに、コロナ前はいろいろジャポニズムとか通してとかやっていたところですけども、コロナの中で今はもうなくなってしまった。

ただ一つ言えるのが、先ほどの縄文も含めて長い歴史がある中で培って来た風景、人並みをしっかりと維持していくというのが一番大事ではないかなという風に思っております。日常の営みをしっかりと遺産のところに繋げて行って、そしてまたそれを維持していくということが一番大きなこれからのテーマになるではないかなと。

そこに民間事業や国等からもその支援であったりを連携していきながら、プラスして世界遺産を守っていくという段階に入って来たのではないのかなと思います。そうした点も含めてしっかりと世界遺産を維持してだけでなく活用していくという視点でも取り組んで参りたいなと思っております。引き続きどうぞ宜しくお願い致します。

門川代表理事(京都市長)

有難うございます。続いて、本年度頑張れば、世界遺産催事の映像がだいぶ蓄積されていき、いい情報が世界に発信していけるんじゃないか、といった報告がありました。「サイレント・クリスマス」映像の撮影にご協力いただいた南島原市・松本市長さん、何かお一言あればお願いします。

南島原市・松本市長

こんにちは。長崎県の南島原市長の松本でございます。日本文化の発信プロジェクトの動画でございますが、これを見ましてですねどの動画についても行ってみたいと感じるというものになっているということで大変素晴らしいなという風に思いました。世界文化遺産に登録されるということはもちろん知名度向上というのがありますが、世界に向けても貴重な文化遺産であるということをPRできるようになっておりました。先ほどですね韓国のYouTube 広告で動画で流されてるということでありましたが、コロナの関係で外国人観光客誘致の為に、現在大変外国からのお客さんが減少している中、そういった事業を積極的に行っていただきたいという風に思っております。どうぞ宜しくお願いします。

門川代表理事(京都市長)

有難うございます。引き続きよろしくお願いいたします。

情報発信面では、縄文遺産群に入っていたことにより、時代的にも、地理的にも世界遺産で日本そのものをカバーできる感じになってきました。「世界遺産で辿る日本史」を執筆いただいた熊倉先生、まずはこの点につき一言補足願います。

熊倉(高崎商科大学)

北海道北東北の縄文遺跡群の新規登録により、皆さんたびたび仰られているように、北は北海道から南は沖縄九州まで全てに世界文化遺産が存在することになりました。と、同時に、時代的にも1万5千年前から数10年前まで全て揃ったわけです。

それらを俯瞰して見れば、外国人は勿論でしょうが、私たち日本人自身が日本の歴史というものを世界文化遺産を通して再理解することができるようになったと言えます。インバウンドのお客様の反応を見ながら、私たち自身が日本という社会の成り立ちにつき、ちょっと深掘りしてみたいなと思いました。

ホームページの「世界遺産で辿る日本史」については、各遺産の登録時の申請書をベースにしなが、できるだけ短い文章、同じ分量で見えていただけるよう工夫しました。皆様も仰っているように、日本の世界遺産には広域性や通時性、そして多様性がある訳ですが、更に加えれば持続性という視点があると思っています。

京都が一番典型的で、京都の中心市街地の中で平安京以来のものって、おそらく数えるほどしかない。しかし度重なる戦火や災害の度ごとに復興されて来た。京都だけでなく全ての遺産にもそうした特徴が見られる。平泉でも中尊寺金色堂以外は12世紀以来のものではないけれども、その後、人々の生活の中で復興したり、遺跡として守られたりして来ている。それらを改めて北海道北東北の縄文遺跡群から原爆ドームや国立西洋美術館まで眺めて見たいと思うのです。

私たち自身が改めて日本の歴史を世界文化遺産を通して見ようではないか。また世界の人々も世界文化遺産を通して日本を見るに違いない。これは日本の顔なんだ。少なくとも公式サイトや様々な映像で繋げていくのが私たちにとって大きな役割なんだと思います。できれば欲を言いますと、2025年の大阪万博に向けて一冊の冊子を多言語版で作ることができればいいなと。その為には各地域の皆様から改めてお話を聞いたり、写真材料を頂戴したりしながら、そんなものを作って行ければいいなと思っています。僭越ですけれども、そんな思いでお手伝いさせていただきます。

門川代表理事(京都市長)

熊倉先生、外国人だけではなく日本人自身が世界遺産を通し歴史を学ぶ。また日本の世界遺産地域にみられる重要性・多様性・持続可能性などについて、大変重要なことを言っていたと思います。

さて、9月には縄文遺跡群の撮影に行くという報告もありましたが・・・縄文遺跡群の全構成資産を視察いただいた多田みのりさん、視察団を代表して、何かこの遺跡群に対するご感想やご提案などはありますか？

多田みのり(旅と歴史のライター)

こんにちは。遺跡や史跡を巡る度の記事を書いております多田みのりと申します。昨年、今年と北海道北東北の縄文遺跡群の全ての構成資産を見学してまいりまして、今までもいくつか訪れたことがあったんですけれども、世界遺産として全体を見ますと、地域連携しながら縄文を学ぶルート作りを考えて行く上でのポイントが見えて参りましたのでちょっとご提案をしたいと思っています。

まず1万年以上続いた長い縄文時代を区切る3つのステージを念頭において巡れるようにすること。そしてできるなら時系列でステージ1から2・3と時代を追って試してみるということのを意識してもらいたいと思っています。縄文時代がどんな風に発展成熟していき、その中でこの遺跡は縄文時代の始めの方なのか終わりの方なのかそれを意識することで以下に大きな差が出てきます。

私たちも実際に東北も北海道もステージ1の遺跡から順を追ってみることで時系列にみたものを整理することができました。そうすることで同じように見える縄文遺跡を系統立てて理解することができます。1つ見れば十分ではなくて1つ見ただけじゃ縄文を分かったとはいえない、という大きな差を生むと思います。

しかしながら、これを逆に言うと初心者の方とか旅行日数に余裕のない方というのは例えばステージ2の遺跡ばかりたくさん見たり、貝塚だけを三つも四つもまわったりという必要はなくて、各ステージを1つずつ最低3つ見ればプチコンプリートができるということになります。例えば交通機関との兼ね合わせでいうとまず飛行機で函館空港から入ってステージ1の垣ノ島遺跡、新幹線に乗り本州に渡って七戸十和田からステージ2の前期のニツ森貝塚、そして新幹線で南下して二戸駅からステージ2後期の御所野遺跡そこからレンタカーもしくは盛岡経由の在来線でステージ3の前期の伊勢堂岱遺跡そこから弘前に出てステージ3後期の大森勝山遺跡でという・・・例えばそういうルートですと伊勢堂岱遺跡までで2泊3日、大森勝山遺跡も含めて3泊4日で全てのステージを巡ることができます。

土地勘がないとなんのことやらという感じかもしれないですけれども、もちろん北東北のみならばスタートはステージ1の前期の縄文の始まりの始まりの遺跡大平山元遺跡。そしてステージ2行ったこと無いのであれば三内丸山遺跡でもいいですし、ステージ3は秋田の大湯環状列遺跡とコンパクトに周るのも良いかと思います。

ともかくステージを意識すること。そして時系列にこだわりすぎなくてもいいけれども、できればステージ1の始まりの垣ノ島遺跡や大平山元遺跡を最初に行くのがおすすめ。そして北海道から北東北に遺跡が点在していますけれども交通機関をうまく使えばそれほど大変ではない。けれども一般の方々はスケジュールを組むのが思

ったよりも得意ではないので、分かりやすくルートを示すということ。これらの点をご意識いただいてアピールしていただくといいのかなと思いました。僭越ながらご提案でした。

門川代表理事(京都市長)

残り時間がなくなって来ましたが、せつかくの機会ですので、各地の新しい動きについてもできるだけ共有して行きたいと思います。

宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界遺産登録5周年を迎えられる福津市長さんいかがですか？

福津市・原崎市長

こんにちは。福岡県福津市長の原崎と申します。世界遺産に登録されまして今年で5年になったということで、特に今年の5周年行事の取り組んだことについてご紹介させていただければと思っています。

世界遺産であります「神宿る島 沖ノ島・宗像」は私ども福津市と隣の宗像市の、島しょ部をエリアとする遺産群です。沖ノ島で始まる古代祭祀とその祭祀が発展して、沖ノ島・筑前大島・本土の宗像市にある宗像大社の三つのお宮へと発展します。福津市の新原・奴山古墳群は沖ノ島祭祀を行い、信仰を支えた豪族・宗像氏の存在を今に伝えています。

この遺産群の登録日は平成29年の7月9日です。今から五年前ポーランドのクラクフで開催されました世界遺産登録委員会で決議を受けました。今年で5周年です。2つの市にまたがる本遺産群の保存と活用を広域で進めるために福岡県と福津市、宗像市、宗像大社の4社で構成される「神宿る島 宗像・沖ノ島と関連遺産群」保存協議会というのを作りまして、様々なことを実施計画しております。

目玉事業としては先月7月18日海の日に開催致しました「世界遺産 沖ノ島スペシャル遊覧ツアー」です。JR九州高速線に乗船いたしまして、一般の人が上陸できない沖ノ島へ近づいて高速線クィーン・ビートルで沖ノ島を見学するツアーでした。約390名参加いただいています。協議会ではこの世界遺産のある福津市・宗像市の小中学校

の子どもたちも47名招待しまして、普段見れない、上陸できないこの世界遺産沖ノ島の見学を船から致しました。70キロ離れてるので中々船でも近くに行けない沖ノ島です。当日はあいにくの雨で状況はよくなかったんですけども、本当に間近まで近づきまして突然目の前に世界遺産の沖ノ島が現れましてこれに子どもたちは本当に喜んでいました。記念写真を撮ったり楽しんでいました。この高速船には知事も両市町も宗像大社の宮司も乗船しているいろんな船の中でのイベントを行ったわけです。

5周年事業として次は沖ノ島以外の様々な福津市の古墳群も含めた構成資産とガイド施設を巡る現地に行かないと解けないクイズに加えまして、全問正解致しますと景品がもらえるイベント「海と宝のクイズラリー」というのをちょうどこの夏休み期間に実施させていただきました。景品の目玉が普段上陸できない沖ノ島から出動した龍の装飾品をモチーフにしたクッションで多くの方がイベントにこのクイズラリーに参加していただいております。

今後予定しているものとしては市民検定があります。多くの方に遺産群、遺産に興味を持っていただきたいという企画をしております、子ども対象の検定も追加で検討しております。この企画は詳細が決まり次第本遺産群のホームページで紹介されますのでどうかご参考頂きたいと思っております。

最後に11月13日を語呂合わせで「いい遺産の日」として、この日を中心に世界遺産イベントを計画しております。2ヶ月後。世界遺産一斉ビーチ・クリーンと言います。先ほどご紹介頂きました本遺産群は文化遺産ですが、海という自然との調和や自然の環境補正が大切になってくる特別な遺産群ですので、世界遺産の海を守るというスローガンで市民の方、事業者さんに海岸清掃を呼びかけたいと考えています。会議にご参加頂いている皆様の地元でも宜しければこの一緒に清掃活動を行うことはいかがでしょうかなど問いかけていきたいなと思っております。本日ご紹介したこの事業以外にも福津市、宗像市では民間グループもこの5周年関連事業をこのコロナ禍の中でも実施計画しておりますことをお伝えさせていただきました。我が街、福津・宗像の取り組み紹介を終わります。ありがとうございました。

門川代表理事(京都市長)

登録記念事業以外にも、各地の最近の新しい動きにつき、この場で紹介しておきたいことがあれば、自由に情報提供願います。

ネイキッドの久保哲矢さん、いかがですか？

久保哲也(ネイキッド)

ご紹介いただきました、ネイキッドの久保と申します。門川市長には大変お世話になっております。また、先ほどの井戸さんのご説明の中にもありましたように、秋冬に京都で「ネイキッド・ガーデン One Kyoto」というイベントを企画しております。

門川・京都市長をはじめ大津の佐藤市長、宇治市の松村市長と共に3市で、大きなアートプロジェクトを実施してみたいと風に考えています。3市全体を大きな庭に見立て、コロナでもありますので、各社寺で分散型に順々にイベントを行うという企画です。リアルの展開だけでなくバーチャルでの展開も考えています。9月15日に京都市役所前でオープニングセレモニーを行い、そこから12月までの期間でございまして、皆様宜しく願いたいと思います。

門川代表理事(京都市長)

少し時間が超過してしまいましたが、ここまでで話題とならなかったことについてでも結構です。最後にこれだけはという方はいらっしゃいませんか？

七戸町・小又町長

七戸の小又です。実は世界遺産登録に向けて国内外からいろんな反響がありました。その中で一部から「史跡の中を町道が走っている。これは良くないね」というご指摘がありまして、できればこれを何とかしたいとそういう風に思っているんですけども、史跡そのものは高台にありまして、いざそれをぐんとかわして下にかなり低いところに下げなければならないんです。そうすると工事費も相当なものになります。数千万円じゃ効かないでしょう。そういったことで町単独での移設というのは非常に困難です。そういった面での国の助成というのを願いたいという風に思っております。その辺はいかがでしょうか？

門川代表理事(京都市長)

有難うございます。基本的には引き続き国と協議していただければということになりますが、我々も様々な地域の遺産のことについて意見をまとめて国には提言していきたいと思っております。

「サミット」等で大変お世話になっている観光庁、文化・歴史資源活用推進室長の遠藤さん、本日の議論のご感想などあれば・・・

観光庁・遠藤室長

今ご紹介頂きました観光庁の遠藤でございます。各地域の皆様非常に積極的に世界遺産を保存し活動していくという姿勢で、非常に心強い思いでございます。観光庁としてもまさに観光立国の復活ということで、これまでコロナで非常に厳しい状況にあった中でございますけれども多くの国内、国外の方々に世界遺産をご覧いただき、その素晴らしさに触れていただきたいと、そういう思いを非常に強く思っているという状況でございます。

必要な所用の遺産欲求等のこの令和5年度に向けてさせていただいておりますので地域の方々には是非ご覧いただいた上でまだ8月末ではございますけれども、オープンになった際には是非ご活用いただき文化の振興、観光の振興にご活用いただければ有難いなと思っております。

当然国内のみならず国外の発信もしっかりとやっていきたいと思っておりますし、観光庁としても特に水際対策を始め非常に高いレベルで挑戦等を一生懸命させていただいておりますので、その辺は是非地域の皆様と協力しながら進めていきたいと思っております。

更に本日世界遺産サミットのお話も頂戴していたところでございます。観光庁の方からできるだけ多くの方々にご賛同頂くように支援をさせていただきたいと思っておりますし、今回9回目になって10回目は斑鳩ということも伺っていますけれども、こちら観光庁としてもしっかりと支援していきたいなという風に考えております。

皆様と手を取り合いながら協力して対応していきたいなと思っております。僭越ではありますがわたくしからのコメントは以上でございます。ありがとうございます。

門川代表理事(京都市長)

文化立国・観光立国に向け、各地域も頑張ってくださいけれども、国の方でもよろしく願いいたします。

少し時間が延長しまして申し訳ございません。多様なご意見をいただきました。

各地域で非常に理解が深まっています。そして世界遺産が広がり、深まりそして私たちの責任も重いということを改めて実感しております。

文化と観光でもって様々な課題解決、SDG'sのバッジをつけている方もたくさんおられますけれども、誰一人取り残さない持続可能な社会を作っていくということが大事になりました。共々に協力・連携しながら、来たるべきアフター・コロナ時代にしっかりとした役割を果たしていきたいと思っております。

更に京都市はウクライナの首都キーウ市と姉妹都市提携が昨年、50周年を迎えました。非常に厳しい戦争が続いています。ロシア軍の侵略が続いています。少しでも世界の平和のためにも貢献していく、そんな世界文化遺産地域連携会議でありたいと思っております。

本日はありがとうございました。

事務局(井戸)

それではこれもちまして一般社団法人・世界文化遺産地域連携会議の2022年度総会を終了させて頂きたいと思っております。

皆さま本日はご参加ご協力いただき有難うございました。

(終了)